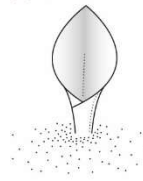
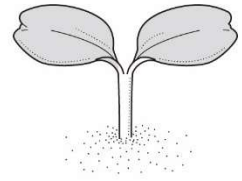


- 【1】 図1は、ツユクサとアブラナの芽生えを表したものである。これについて、次の問いに答えなさい。



ツユクサ



アブラナ

1. 次の文章は、ツユクサとアブラナに共通する特徴を述べたものである。()にあてはまる言葉を答えなさい。

ツユクサもアブラナも()が子房の中にある植物なので、被子植物のなかまである。

2. ツユクサのように、子葉が1枚の植物は、被子植物のうち何類とよばれるか。
3. 下の図は、ツユクサとアブラナの葉脈と根のようすを観察した結果を表している。ツユクサの葉脈と根のようすを表しているものとして、正しい組み合わせを次のア～エから1つ選びなさい。

ア. AとC

イ. AとD

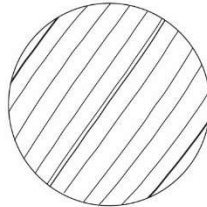
ウ. BとC

エ. BとD

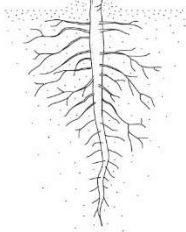
A



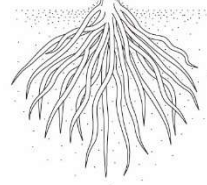
B



C



D



4. 次のア～エのうち、花卉が1枚1枚離れている植物はどれか。

ア. タンポポ

イ. サクラ

ウ. ツツジ

エ. アサガオ

5. 4の植物は、何類とよばれるか。

【2】 右の図のようなスギゴケとイヌワラビについて観察した。これについて、次の問いに答えなさい。

1. スギゴケとイヌワラビは、それぞれ分類上どの植物に分類されるか。次のア～エから1つずつ選びなさい。

ア. コケ植物 イ. 被子植物
ウ. シダ植物 エ. 裸子植物

2. スギゴケとイヌワラビに共通することがらを、次のア～ウから1つ選びなさい。

ア. デンプンなどの栄養分をつくる。 イ. 葉・茎・根の区別がある。
ウ. 果実ができる。

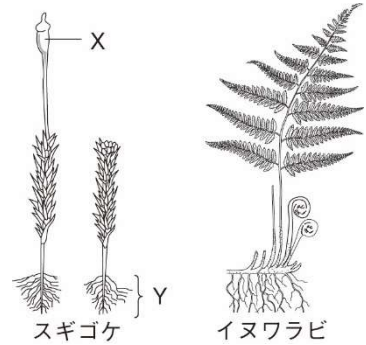
3. スギゴケのXには、何が入っているか。

4. イヌワラビの3は、どこでつくられるか。「葉」という言葉を使って、簡単に答えなさい。

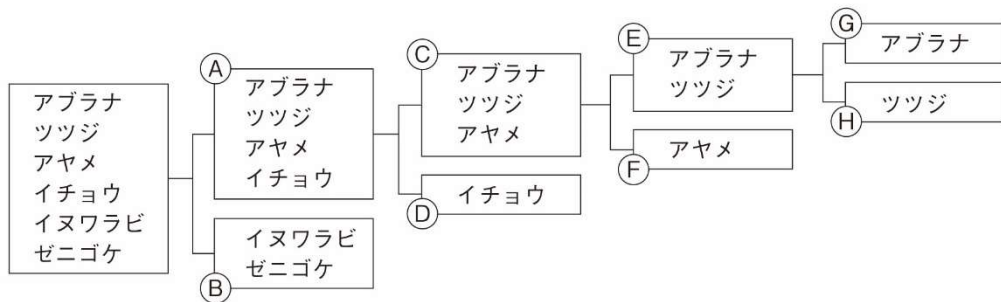
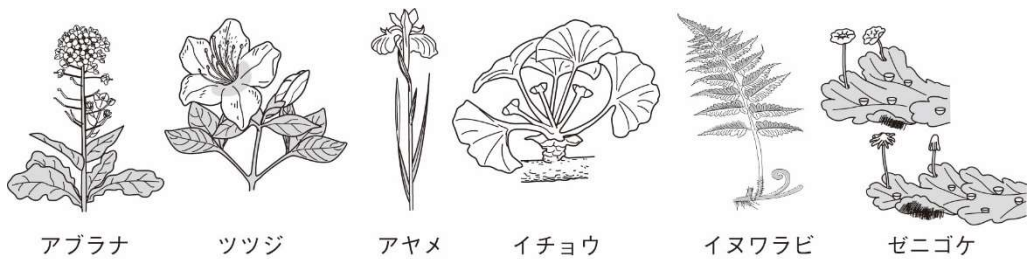
5. スギゴケのYは、仮根といい、体を地面に固定する役割があるが、水や養分を吸収するはたらきはない。スギゴケはどのようにして水や養分をとり入れているか。

6. イヌワラビと同じなかまには分類されない植物を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア. ゼンマイ イ. スギナ ウ. ノキシノブ エ. イチョウ



【3】 下の図は、6種類の植物をいろいろな特徴をもとになかま分けしたものである。
これについて、次の問いに答えなさい。



- 図の6種類の植物すべてに共通することがらを、次のア～ウから1つ選びなさい。
ア. デンプンなどの栄養分をつくる。 イ. 雌株と雄株に分かれている。
ウ. 湿ったところに生育する。
- Aグループの植物を何植物というか。
- AグループをC, Dの2つのグループに分けるには、どのような特徴に注目してなかま分けをするか。分ける基準を簡単に説明しなさい。
- Bグループをさらに2つのグループに分けるには、どのような特徴に注目してなかま分けをするか。次のア～ウから1つ選びなさい。
ア. 果実ができるか、できないか。 イ. 葉・茎・根の区別があるか、ないか。
ウ. 胞子をつくるか、つくらないか。
- E, Fグループの説明として、正しいものを次のア～エから1つ選びなさい。
ア. Eグループの葉脈は平行脈で、根はひげ根であるから、単子葉類である。
イ. Fグループの葉脈は平行脈で、根はひげ根であるから、単子葉類である。
ウ. Eグループの葉脈は平行脈で、根はひげ根であるから、双子葉類である。
エ. Fグループの葉脈は平行脈で、根はひげ根であるから、双子葉類である。
- G, Hグループは、花のつくり注目して分けることができる。G, Hグループにあてはまる植物の組み合わせを、次のア～エから1つ選びなさい。
ア. G : タンポポ H : エンドウ イ. G : アサガオ H : ヘチマ
ウ. G : スミレ H : バラ エ. G : サクラ H : ヒマワリ

年	組	番	名前
---	---	---	----

【1】

1		2	
3			
4		5	

【2】

1	スギゴケ	イヌワラビ	
2		3	
4			
5			
6			

【3】

1		2	
3			
4		5	
6			

章末評価問題
(解答と解説)

植物のくらしとなかま
4 章 植物のなかま分け

【1】

解答

1. 胚珠
2. 単子葉類
3. エ
4. イ
5. 離弁花類

解説

1. 種子植物のうち、ツユクサやアブラナのように、胚珠が子房の中にある植物を被子植物という。
2. 被子植物のうち、子葉が1枚のものを単子葉類、2枚のものを双子葉類という。
3. ツユクサは単子葉類なので、葉脈は平行脈で、根はひげ根である。
4. 5. アブラナやサクラは、花弁が1枚1枚離れている離弁花類で、タンポポやツツジやアサガオは、花弁が1つにくっついている合弁花類である。

【2】

解答

1. スギゴケ…ア イヌワラビ…ウ
2. ア 3. 胞子
4. 葉の裏の胞子のうでつくられる。
5. 体の表面から吸収する。
6. エ

解説

2. スギゴケ(コケ植物)もイヌワラビ(シダ植物)も、デンプンなどの栄養分を自分でつくる植物である。
5. イヌワラビのようなシダ植物は、葉・茎・根の区別があるため、水や養分は根から吸収する。
6. イチョウは、種子植物のうち、裸子植物に分類される。

【3】

解答

1. ア
2. 種子植物
3. 胚珠が子房の中にあるか、子房がなくむき出しになっているか。
4. イ
5. イ
6. エ

解説

1. 植物はすべてデンプンなどの栄養分を自分でつくる。
2. Aグループの植物は、種子でなかまをふやす種子植物である。Bグループは孢子でなかまをふやす植物である。
3. Cグループは、子房の中に胚珠がある被子植物で、Dのイチョウは、子房がなく胚珠がむき出しになっている裸子植物である。
4. イヌワラビはシダ植物で、葉・茎・根の区別があるが、ゼニゴケはコケ植物で、葉・茎・根の区別はない。
5. Eグループは双子葉類で、Fグループは単子葉類である。双子葉類の葉脈は網状脈で、根は主根と側根があるのに対し、単子葉類の葉脈は平行脈で、根はひげ根である。
6. Gのアブラナは離弁花類に、Hのツツジは合弁花類に分類できる。